

# 地球温暖化防止のための取り組み

## 生産工程での二酸化炭素排出量

### 生産活動での二酸化炭素排出量

東洋製罐グループでは、電力使用に由来する二酸化炭素、燃料の燃焼にともなう二酸化炭素および原料に含まれる溶剤の燃焼や原材料製造で発生する二酸化炭素を合計して、二酸化炭素排出量としています。

東洋製罐グループの2008年度の二酸化炭素排出量は、1,527千tonとなり、2007年度とほぼ同等でした。各会社における省エネルギーの取り組みの他、2008年度は景気悪化の影響で需要が減り、生産で使用するエネルギー量が減少しました。しかし、電力会社の二酸化炭素排出量原単位が増えたことにより、結果として排出量は2007年度とほぼ同等となりました。

東洋製罐単体では、2008年度の二酸化炭素排出量は、2007年度から27千ton増加し、638千tonとなりました。電力会社の二酸化炭素排出量原単位が増えたことにより、全排出量の78%を占める電力消費にとも

なう排出量が増えたことが要因です。削減活動としては順調に進んでおり、仮に原単位を前年と同一の数値を使った場合、584千tonとなって減少したことになります。

### 二酸化炭素排出量の2010年度削減目標

東洋製罐グループ… 1990年度比-13%  
東洋製罐…………… 1990年度比-6%

### 東洋製罐における削減の取り組み

東洋製罐では二酸化炭素排出量の削減目標を「2010年度に

1990年度比6%削減する」として活動をしています。この目標を達成するために、本社、工場が一丸となって活動をしています。

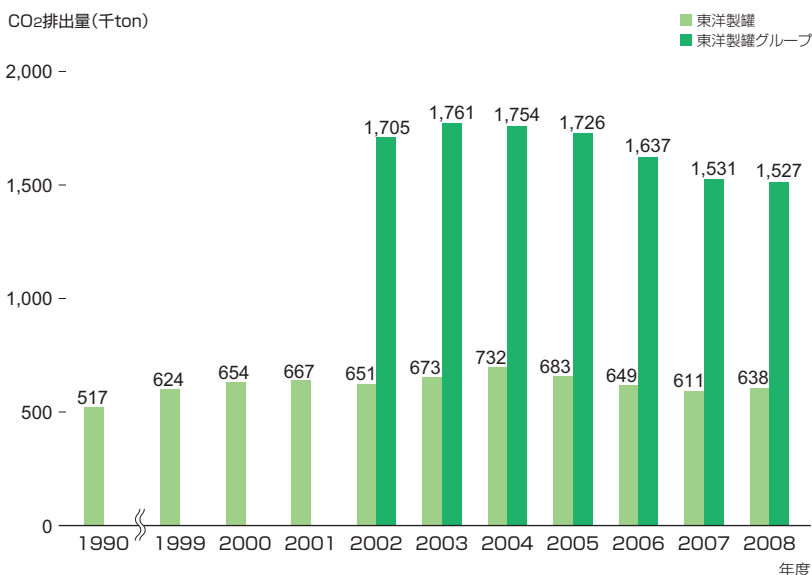
[本社部門における施策]

- ①エコプロジェクト(設備の省エネ)の推進
- ②生産ラインの集約・再構築
- ③新規技術開発

[工場における施策]

- ①ISO14001全社統合システムに基づいて、二酸化炭素排出量削減活動を進める

二酸化炭素排出量の推移



## 物流部門での二酸化炭素排出量

東洋製罐では、2008年度、物流部門での二酸化炭素排出量は53千tonとなり、2007年度比94%(目標88%)、1999年度比85%(目標80%)と、目標にはおよばないものの、減少させることができました。

在庫を減少させたことにより、ストックポイントを通さずに需要地へ直送する機会が増え、輸送量は前年度比7%の削減となりました。また、より需要地に近い工場で生産する体制を強化したことにより、長距離輸送が一段と減少し、総輸送距離は前年度比10%の減少となりました。

一方モーダルシフトについて

は、長距離輸送が減少したために、海上輸送の利用機会は減少気味です。また鉄道輸送については輸送枠の確保、コンテナ等輸送機材の制約、トラックによる末端輸送等でコスト面でもメリットを見出すのは困難であり、対応に苦慮しています。今後はより一層、トラックによる輸送の効率化を目指さなければなりません。

また、当社は改正省エネ法により、2007年度に特定荷主の指定を受けており、毎年使用エネルギー量の定期報告とエネルギー削減計画を提出しています。

### 物流部門での二酸化炭素排出削減の主な施策

二酸化炭素排出量を削減するために、以下の取り組みを継続し、

一段と強化します。

- 1.在庫を削減し、社外での保管量を減少させて、直送機会の増加を図ります。
- 2.需給システムの活用により、生産機会の最適化や生産能力の向上を図り、より需要地に近い工場で生産する体制を構築します。
- 3.長距離輸送のみならず、短距離輸送においても配車支援システムを活用して、トラックの往復利用を推進し、空車回送の削減を行います。
- 4.長距離輸送の機会をとらえて、トラック輸送よりも二酸化炭素排出量の少ない輸送機関の利用を進めます。

物流での二酸化炭素排出量

